

# 日本語フィラーと中国語フィラーの機能に関する対照研究

葛, 欣燕

<https://doi.org/10.15017/4060252>

---

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (学術), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

## 要旨

日本語の日常会話を観察すると、産出上なんらかの障害が生じる時、「あの一」「えーと」「なんか」「まあ」等、フィラーと呼ばれる言語表現が頻繁に使われる。フィラーは言語産出過程で困難がある時に対処する手段の1つである一方、ポライトネスに関わる、対人関係を調整するストラテジーの1つであると指摘されている。フィラーは言語を超えてどの言語にも存在している一方、その使用特徴には異なる部分が多い。また、フィラーは意味を持たず、それを会話から取り除いても発話全体の構成や意味伝達に影響を与えないため、中国の日本語教育現場ではフィラーの指導がほとんど無視されているのが現状である。さらに、フィラーを外国語に翻訳することは難しく、また外国語のフィラーを習得することもかなり難易度が高い。

本研究では、まず、日本語と中国語の会話データに基づいて、出現位置、場面の改まり度と機能の関わりから両言語のフィラー使用の特徴を明らかにした。次に、日中接触場面の日本語母語話者と中国人日本語学習者の日本語フィラーの使用実態を比較し、学習者による日本語フィラーの使用に見られる問題点を解明した。論文の構成は以下の通りである。

第1章では、研究背景、研究目的及び論文全体の構成を述べた。

第2章では、先行研究を概観し本研究の立場を示した。まず、日本語フィラーと中国語フィラーに関する先行研究を概観した。日本語フィラーに関する研究は日本語学、心理言語学、コーパス言語学、会話分析、個々のフィラーの用法という5つのアプローチから整理した。中国語フィラーに関する研究は、副詞や接続詞等から談話標識への文法化過程と、個々の中国語談話標識の用法を概観した。次に、先行研究の問題点を指摘し、本研究の立場を示した。最後に、本研究のフィラーの定義、日本語フィラーと中国語フィラーの類型及びフィラーの機能の分類を述べた。

第3章では、本研究で使用したデータの特徴、その収集法、そして文字化基準を紹介した。

第4章から第6章までが本論である。第4章では、出現位置と機能、場面の改まり度と機能という2つの側面を中心に、日本語フィラー使用の特徴について分析した。フィラーの機能を「発話内容・構成調整機能」と「対人関係調整機能」という2つに分けて、さらにそれぞれに下位分類を立て、会話例を観察して分析を行った。「言葉探し」としてのフィラーはどの位置にも現れる。発話頭に位置するフィラーは主に人間関係を配慮しながらコミュニケーションを円滑に遂行させる機能がある。発話中に位置するフィラーは発話の構成、談話の展開及び聞き手への配慮を意識しつつ使用されている。発話末

にフィラーを付加することは「言葉探し」、「情報の曖昧化」、「共通理解」という効果を出す。場面の改まり度と機能の関わりに関しては、テレビインタビュー場面と雑談場面の制度性の特徴からフィラー使用の差異について分析・考察を行った。

第5章では、中国語フィラーに関する観察・分析をした。第4章と同様の側面から中国語フィラー使用の特徴を論じた。発話頭に位置するフィラーは、良好な人間関係を保ちながらコミュニケーションをスムーズに運ぶ機能をする。特に「言葉探し」、「和らげ」「ためらい」、「発話権奪取」のフィラーの使用率が高い。発話中に位置するフィラーは、適切な表現を探したり発話内容を調整したり、または対人関係を調整したりするように、ほかの位置に比べて最も豊富に使われている。発話末に位置するフィラーは「言葉探し」として使用されている。

第6章では、第1に、出現位置、場面の改まり度、機能から日本語フィラーと中国語フィラーの使用の特徴を比較対照させ考察を行った。具体的には、フォーマルな場面とインフォーマルな場面に分けて、各位置の日中フィラー使用の相違点について考察した。結果としては、「発話内容・構成調整機能」としてのフィラー使用は類似しており、「対人関係調整機能」としてのフィラー使用に関しては、日本語フィラーの使用は「聞き手中心」であるのに対し、中国語フィラーの使用は「話し手中心」であるという結論に至った。また、日本語フィラーは「共通理解」の使用率が高い一方、中国語フィラーは「発話権奪取」の使用率が高いことが明らかになった。第2に、日中接触場面の会話データに基づき、日本語母語話者と中国人日本語学習者の日本語フィラーの使用実態を明らかにした。まず、母語話者と学習者の各フィラー類型の使用頻度を算出した。次に、会話データの分析結果に基づき、母語話者と学習者の日本語フィラーの機能別の使用数及び割合を数値で示した。そして、発話内容・構成調整、対人関係調整という2つの機能から母語話者と学習者による日本語フィラー使用の相違点を抽出し、会話例を示して説明を行った。

第7章では、本研究の要約と研究意義、及び今後の展望を述べた。

本研究は、日本語フィラーと中国語フィラーの使用特徴について比較対照を行った。これまで研究対象とされていなかった日中フィラー全体に関する機能上の相違点を体系的に示した。また、日中接触場面における日本語母語話者と中国人日本語学習者の日本語フィラーの使用実態を解明することによって、学習者の日本語フィラー使用の問題点を明らかにした。本研究の結果は中国の日本語教育現場へ応用する可能性を持っており、有意義な基礎研究だと言える。